



一歩

夏休みの課題「未提出」・大形自習室

夏休みが終わり、課題の提出がありました。昨日の帰りの会時点で、3年生で未提出生徒が約30人いました。その生徒を対象に、放課後に夏休み課題を終える大形自習室を開きました。参加者は15名ほどでした。人数の差を学級担任に確認すると、未提出者30人は登校初日現在に確認した人数のため、その後教科担当の先生に直接提出したため、未提出者の実数はもう少し減るようです。しかし、明らかに未提出でありながら自習室に不参加の生徒もいます。

A 自習室で課題を終え提出する

※自習室に参加した生徒のほとんどが、課題をやり終えて提出しています

→ B 自習室に参加しない

→ C 家でもやらない

→ D 提出しないまま終える

夏休み明けに課題が未提出の場合、Aのようにやり終えて提出しなければいけません。しかし、B、C、Dと学習する機会を避け、やらないまま教科担当など先生たちの声かけがフェードアウトするのを待つかのような状態は、BよりC、CよりDと悪い状態となり、当然評価も未提出に見合ったものが付きます。課題提出も、夏休み明けのテストも前期の評価に入りますから、未提出で終えた生徒は、その教科の前期評価が低いことを覚悟してください。大形自習室にも参加せず、未提出の生徒にはその教科の「関心・意欲・態度」に、やる気のない「C」評価もあり得ることを承知しておいてもらいたいと思います。

※「関心・意欲・態度」の「C」評価は、入試での不合格になる割合が非常に高くなる可能性があることは、以前から説明しているとおります。



定期テストと実力テスト

授業の理解度を確認する「定期テスト」。9月19日(木)・20日(金)の前期期末テストがそれに当たります。3年生のみなさんは、先日おこなった「実力テスト」というテストもこれから毎月のようにおこないます。実力テストは、その名の通り中学3年間の学習内容に対する理解度をチェックするとともに、出題範囲の広い入試問題ならではのいわゆる難問に挑戦するテストです。

学習も、日頃の授業学習と入試に向けた特別学習と区別して取り組んでいます。本来、基礎となる内容は、中学校3年間の学習内容なので同じなのですが、入試問題は2つ以上の学習単位に関する問題も出題されることもあります。

一昨日、数学と英語のアフタースクールの案内が配付されました。

授業では、基本的な学習内容に付いてくるのも精一杯の生徒にも理解できるような学習レベルで進められています。アフタースクールでは、入試に向けた学習になります。日頃の授業では物足りなかった生徒(毎日ごめんね)に、ぜひ参加してもらい、高い学習レベルでの授業と問題にチャレンジしてもらいたいものです。公立高校一般入試の2日目に、数学や英語の筆頭検査があります。それくらいの難問にチャレンジして、入試を突破したい人向けと言えます。

アフタースクールは9月から始まります。詳しくは、別紙プリントをもう一度読んでください。



取り組みの差→実力の差

上に書いたように夏休み課題の取り組みをしないで終えようとする生徒もいれば、実力テストやアフタースクールなど入試に向けて特別学習などに全力で取り組んでいる生徒もいます。

特別学習は、2年生の冬から取り組んでいます。これから、入試に近づけば近づくほど、その差は大きくなります。取り組んだ量の差が、実力の差となって、どんどんその差は大きく現れてきます。

